



ご来園の皆様への感染症予防のために

- ◆ ご来園前に、検温等を行ってください。
- ◆ ご入園の際は、体温確認させていただきます。
- ◆ 園内では、マスク等を着用し、人との距離の確保をお願いします。
※ 人との距離を十分に取ったうえで、適宜マスクを外すなどの休憩をとり熱中症の予防を心がけてください。
- ◆ 未来くん広場(遊具・きのこ文庫)を閉鎖、観覧温室内の昼夜逆転室を閉室しています。
- ◆ 水琴窟の使用を禁止しています。

ご理解ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

※ 講演会・講習会等を再開しましたが、**定員30名以内**ですのでご理解ください。

「芦生の天然林と着生植物」写真展

○期間：8月21日(金)～8月30日(日)

○場所：植物園会館1階展示室

○内容：植物研究家、福本繁氏が長年撮りためた京都大学芦生研究林内の風景や植物などの写真約50点を展示



← * 詳細は植物園HPで!



第9回 植物画展

○期間：9月11日(金)～9月20日(日)



アートボトル講習会(6) 募集中!!

9/10(木) 経験者の部 10:00～12:00
初心者の部 13:30～15:30

- ★山野草アートボトル同好会が作り方を指導
- ★定員：各10名
- ★参加費：3,000円(別途、入園料が必要)
- ★事前申込：往復ハガキに講習会名、受講希望の回・部、住所、氏名、電話番号を明記
- ★ℳ切：9/8(火)
- ★会場：植物園会館2階研修室

第5回 水草展

○期間：8月28日(金)～9月27日(日)

○場所：植物園会館北側屋外ソテツ周辺

○内容：様々な水草を鉢で屋外展示

◆9/27(日) 水草展関連観察会

植物園会館北側屋外ソテツ周辺 13:30～15:00

(当日会場受付 13:00～、植物園会館玄関前)

内容：「水草展を楽しもう!」

担当職員が、水草展の会場を巡りながら、植物を解説し、ご案内します

「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説!

毎週土曜日は・・・

植物園会館前集合：午後1時スタート!(30分程度)



「植物園ガイド」が植物案内!

～見どころ案内・魅力解説・楽しさ倍増!～

- ① 7名以上のグループや団体で来園される方を対象
- ② 申込は希望日の10日前までに。(要相談)
- ③ ガイドは当面30分程度。(無料)

* 申込先：京都府立植物園 TEL 075-701-0141

New!! 「園長と園内散歩」

8月30日(日) 何処を歩くかはお楽しみ!

植物園会館前集合：午後2時スタート!(30分程度)

植物園芸相談

■ 毎週 日曜日 午前9時～正午、午後1時～午後4時

■ 電話075-701-0141で



スマホdeガイド



QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定!

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成! 「おすすめ樹木めぐり」「おすすめエリアガイド」などをスマホで確認し、植物観察!

※年間パスポート好評発売中

・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです!

大人1000円 高校生750円

・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。

※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP!



⑫ 熱帯スイレン

スイレン科。世界各地の熱帯、亜熱帯に分布。葉が大きく、葉縁がのこぎりの歯のようになり、花が水面から伸び出て咲く点などが温帯スイレンと異なる。花色は温帯種にない青や紫色の系統がある。昼咲きだけでなく夜咲きの種類もある。

⑪ スズムシバナ

キツネノマゴ科。本州の近畿以西、四国、九州および中国中部の暖帯に分布。花は晩夏から初秋の鈴虫の鳴く頃に咲くことが和名「鈴虫花」の由来とされる。花は基本的に一日花で朝開き、午後早くにはしなびて落ちてしまうことも多い。

⑩ アキメネス

イワタバコ科。中南米に分布。夏の高温多湿と寒さに弱い。属名のアキメネスは「寒い天候を好まない」という意味のギリシャ語に由来する。19世紀中頃、ヨーロッパで、その後、さらに米国やドイツで多くの園芸品種が作出された。

⑨ クササンタンカ

アカネ科。熱帯東アフリカからイエメンに分布。和名は低木のサンタンカ(イクソラ)に似て草本であることに由来。最近では属名のペンタスと呼ばれることも多い。ペンタスはギリシャ語で「5」を意味する「ペンテ」に由来し、花の形にちなむ。

① サワギキョウ

キキョウ科。北海道から九州、東アジアなどの沢や湿地に分布。花の色は濃紫色でキキョウのイメージはあるものの、花の形は大きく違う。雄性先熟で、雄しべから花粉を出している雄花期と、その後には雌しべの柱頭が出てくる雌花期がある。

② トウジンビエ

イネ科。熱帯アフリカ原産。少雨、貧栄養土壌、高温という栽培条件に適しており、全世界の雑穀栽培の約50%を占める。現在では美しい穂を持つ幾つかの種が観賞用としても利用される。葉色は緑葉のものから銅葉など品種により様々。

③ 賀茂ナス

ナス科。古くは、左京区吉田田中地区で栽培されていた。1910年代以降に、北区上賀茂、西賀茂付近の特産大型ナス品種として栽培されるようになったが、起源は明確でない。「京の伝統野菜」および「ブランド京野菜」に指定されている。

④ ガガブタ

ミツガシロ科。生育可能な湿地やため池が減少し、京都府では絶滅寸前種に指定。和名は葉の形を平安時代以後の調度品「鏡箱」のふたになぞらえて「カガミフタ」と呼んだのがなまったとされる。朝咲いた花は昼過ぎにはしぼんでしまう。

⑤ スイフヨウ

アオイ科。数少ないフヨウの園芸品種。早朝から咲き始め、朝は純白、昼は桃色、夕方から夜にかけてさらに色が濃くなり紅色に変化する。酔芙蓉の名は、この赤くなる様がお酒を飲んで酔っぱらったように見えることに由来。一日花。

⑥ キョウチクトウ

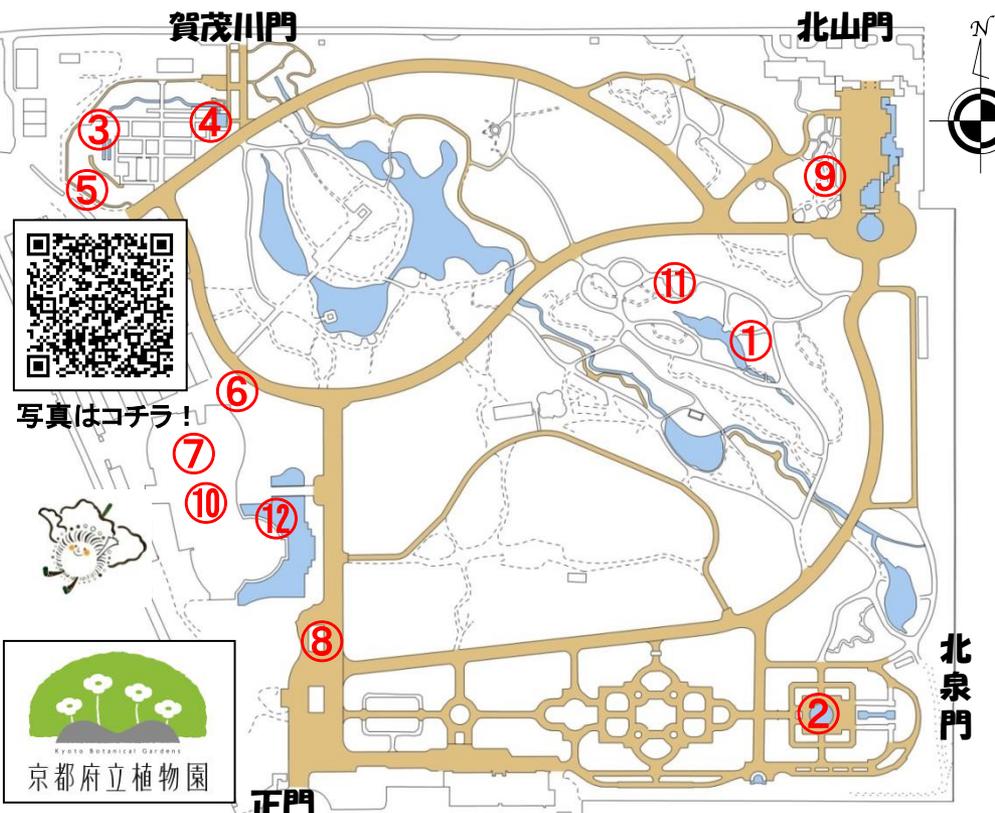
キョウチクトウ科。インド原産。日本へは江戸時代中期に中国から渡来したとされる。葉が竹のように細く、花が桃のように艶やかなことから中国名「夾竹桃」が付けられ、それを音読みにしたものが和名となった。

⑧ メランポディウム

キク科。メキシコを中心に分布。メランポディウムはギリシャ語の「melas(黒い)」と「podium(足)」が語源で、地際の茎、または根の部分が黒い種類があることに由来するとされる。暑さに非常に強いことが特徴で夏の花壇に最適。

⑦ ベニマツリ

アカネ科。キューバ、パナマが原産。日本へは明治時代のはじめに渡来したとされる。夏を中心に長期間、枝先に芳香のある橙赤色の花を咲かせる。和名は、モクセイ科の「マツリカ(茉莉花)」に似た紅色の花を咲かせることに由来。



写真はコチラ!



京都府立植物園